

福住寺報 なむ

お盆
— 特別号 —

—— 発行 ——
浄土真宗本願寺派
光明山 福住寺
—— 発行責任者 ——
住職 長尾 光洋



親鸞聖人御誕生850年
立教開宗800年

慶讃法要



慶讃法要にあたり本願寺より頂戴した記念品と達書の伝達（代読：安楽寺住職横湯様）

福住寺開教130年

福住寺は本年、開教130年目に当たります。福住寺の起こりは、門信徒の心の拠りどころとして、明治26年に札幌別院の出張所である「月寒村説教所」として開設されたことにはじまります。その後、四国讃岐の福住寺の第11代長尾諦順住職が来道し、初代住職として門信徒教化に翻弄されました。明治35年に本堂を落成し「福住寺」と寺号公称いたしました。

ある総代さんのお話では、「明治の開拓時代は、鬱蒼と覆い茂げる樹木を倒し、炭焼き畑を開墾しては、厳しい自然と闘いながらの生活であった。そのような中、心の支えとしての寺院を建立し“あなたもご門徒さんでしたね”と、お念仏を慶び、讃え、励まし合いながらの生活であった」と語られていました。明治の開拓時代は、私たちの想像をはるかに超える苦難の歴史であったことと思われます。これまで、歴代の住職をはじめ、総代・役員・門徒の皆様のご尽力によって130年という長い歴史を積み上げてきました事、先人の皆様にあらためて深く感謝申し上げます。

この4年間は、コロナ禍に翻弄され、皆様の生活や、社会・文化までも変容著しい時代となりました。同じくして、お寺の法要や仏事に関しても様変わりしています。時代の流れの速さに驚く時代ではありますが、先人たちの紡いでくださったご苦勞に感謝申しつつ、今後も福住寺の護持発展、念仏繁盛に一層精進してまいりたいと存じます。

令和5年
5月12日

福住寺役員総会

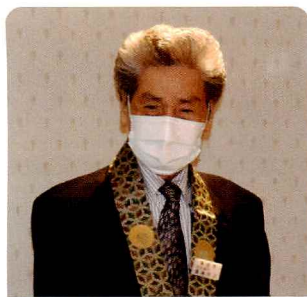
去る令和5年5月12日、責任役員、総代、婦人会、壮年会役員の出席のもと「令和5年度福住寺役員総会」が開催されました。讃仏偈をお勤めした後、新しく地区総代になられた谷藤努・池田和彦地区総代へ委嘱状授与、記念写真撮影。会堂に移動して役員総会が開催されました。

國田裕司総代の議長のもと、令和4年度事業報告・決算報告、山田一元総代の監査報告、令和5年度事業計画・予算案が審議され、原案通り承認されました。

また、桑島忠正総代が責任役員を退任され、林義隆総代・松本吉正総代が会計監査役を退任されることになりました。長年、お寺の役員としてご尽力されたことに深く感謝申し上げます。



役員退任 長年のご尽力ありがとうございました



責任役員退任の桑島忠正氏



監査役退任の林 義隆氏



監査役退任の松本吉正氏



総代長ご挨拶 有田京史氏

住職は、安穩堂・第二納骨堂が無事完成し、令和4年秋季彼岸会において見学会・仏事相談会を開催されたことを報告いたしました。また、新型コロナウイルス感染症が第5類になったことで、コロナ禍で中止していた行事を再開し、徐々に以前の教化活動を行なっていくことを話されました。特に本年は、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年にあたる慶讃法要を厳修し、御絵伝・正信偈・親鸞聖人の木像・絵像などを会堂に特設展示する旨を説明しました。最後には、来年度、福住寺開教130年法要を開催予定で現在準備中であると説明いたしました。

役員新任



新地区総代の谷藤 努氏



新地区総代の池田和彦氏

安穩堂（第二納骨堂）完成

令和2年度より第二納骨堂として計画された事業が令和4年9月13日無事に完成いたしました。

この建物の名称は親鸞聖人の「世の中安穩なれ、仏法ひろまれ」のお言葉をいただき、「安穩堂（あんのんどう）」と名付けました。

上棟式 7月22日



完成 令和4年9月13日



引き渡し 令和4年9月13日



令和4年
9月1日**ご恩を報じ感謝！宗祖親鸞聖人報恩講法要**

そしじゅ

祖師寿の集い（令和4年9月1日午後1時）

1173年にご誕生し90歳まで生き抜かれた親鸞さま。祖師と同一年にならておられる方々に敬意を表し、住職から賞状と記念品が手渡されました。

今年度該当の皆さま

（数え年90歳 昭和8年生まれ）

五十嵐和子様	伊藤 淑子様	楠本登美子様
黒田 サチ様	田地 広子様	仲山 道雄様
速水 文代様	前川 丞子様	松久工ミ子様
水野 ミ工様	宮内 信子様	山田千恵子様
山本 重信様	米道 朝代様	



たいや

お逮夜法要（1日午後2時）

親鸞さまは、生涯をかけて浄土真宗のみ教えを顕かにされ、生死を超えていく道があることをお示し下さいました。その本願念仏の教えを開かれたご恩に報い、ご遺徳を偲ぶ報恩講のお逮夜法要が勤まりました。



本願寺より彦素前総代長への感謝状授与



ご導師は誓報寺前住職天野様



ご法話は 浄福寺 副住職 山下瑞円師



お楽しみ「あみださまクジ」

光が心の闇を照らす！ 宗祖親鸞聖人報恩講法要

ごえでん

御絵伝解説 (1日午後4時)

お逮夜法要のお勤め後、立神法務員による「御絵伝」(親鸞聖人のご生涯)の解説がありました。今回は全四幅のうち親鸞聖人のご誕生から、師である法然聖人との出会いが描かれた第一幅・第二幅の説明をしていただきました。本年9月の報恩講では引続き、第三幅・第四幅の解説を予定しております。



まんとう え

万灯会 (1日午後6時)

午後6時より、3回忌と7回忌を迎えられる方々を招き、亡き人を偲んで灯籠にあかりをつけ万灯会が勤まりました。その後、後夜のお勤めにて初日が終了しました。



ご導師は善住寺住職藤井様



後夜のお勤め調声は有田均総代

令和4年
9月2日

手をつなぎ歩む道！宗祖親鸞聖人報恩講法要

お晨朝 (2日午前7時半)

お経の練習会「声明クラブ」会員の皆様を中心におあさじが勤まり、親鸞さまが往生されたことを偲ぶ御文章「御正忌章」が拝読されました。



御文章の拝読は副住職



お勤めは声明クラブ出仕者による



お勤め後の朝ごはん

ご満座法要 (2日午前10時)

世の中がどのように変わろうとも、親鸞聖人がお示くださったお念仏のみ教えは決して変わることなく私たちにいたり届いています。

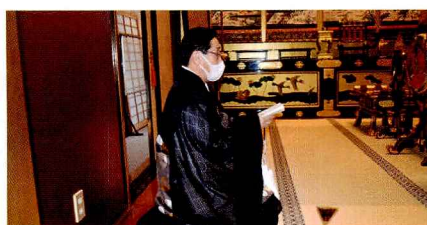
そのご恩を慶び、感謝させていただく報恩講がご満座法要をもって終了しました。



七条袈裟を着けた副住職



中継中の和田さん



会奉行の證誓寺出倉様



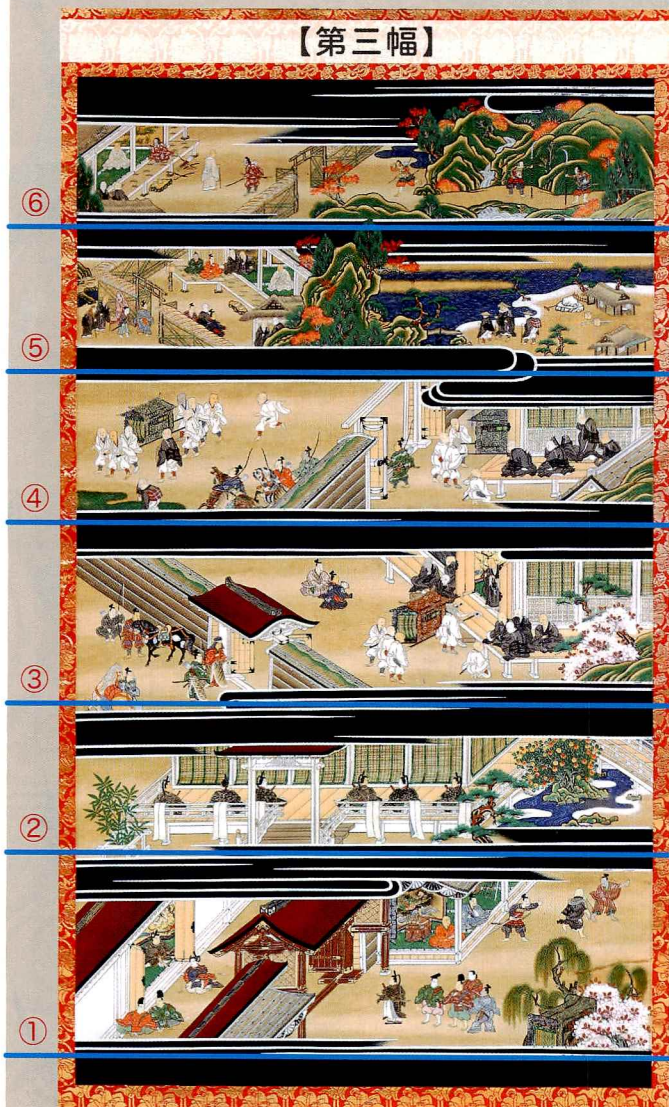
ご法中への御礼言上

御絵伝からいただく 親鸞聖人のご生涯

第二弾

『御絵伝』とは、宗祖親鸞聖人があきらかにされた本願念仏の教えを、後世に伝えようと第三代覚如上人が作られた絵巻物で、全四幅からなり、親鸞聖人のご生涯が描かれています。昨年の続きの第二弾では聖人の生涯の中でも大きな出来事である流罪(承元の法難)から、聖人ご往生までが描かれた第三幅・第四幅をご紹介します。

【第三幅】



①師資遷謫（専修念仏停止）〈1〉

比叡山などの僧侶から浄土教の念仏停止の訴えがされている場面

②師資遷謫（専修念仏停止）〈2〉

訴えをうけて、御所にて専修念仏停止の評定が行われている場面

③師資遷謫（法然聖人配流）

専修念仏停止により浄土教の祖である法然聖人は四国に流罪となり、門の外へ出発された場面

④師資遷謫（親鸞聖人配流）

専修念仏停止により法然聖人のお弟子の親鸞聖人も越後に流罪となり、門の外へ出発された場面

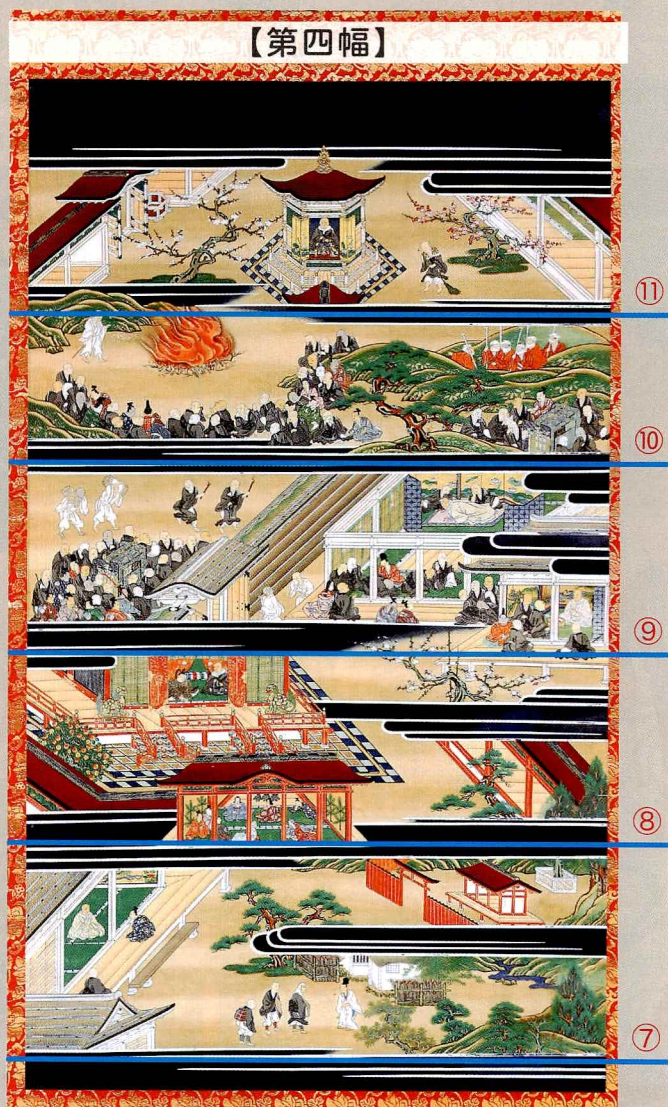
⑤稲田興法

罪が許された親鸞聖人が家族と共に関東に移られ稲田の草庵にて説法されている場面

⑥弁円済度

親鸞聖人の命を狙った弁円が聖人の尊顔、説法を聞き、改心して念仏に帰依する場面

【第四幅】



⑦箱根霊告

親鸞聖人が関東から京都に帰っている途中、箱根にある館の神官からおもてなしを受けている場面

⑧熊野霊告

親鸞聖人のお弟子である平太郎が職務のため熊野本宮を参詣された際、夢の中に現れた熊野権現(神の姿として現れた仏)と親鸞聖人とのやりとりが描かれた場面

⑨洛陽遷化〈1〉

弘長2年11月28日(1263年1月16日) 京都の善法坊にて、親鸞聖人90歳でご往生になられた場面

⑩洛陽遷化〈2〉

聖人往生後、京都東山の延仁寺にて火葬され、親鸞聖人の教化を受けた人々が聖人を偲ばれている場面

⑪廟堂創立

大谷の地に納められていた親鸞聖人の遺骨を吉水の地に改葬し御影像を安置した廟堂を建てられた場面

令和4年
11月23～24日

秋季永代経法要

永代経開闢法要



令和4年11月23日より2日間秋季永代経法要が勤まりました。福住寺では春と秋の年2回、先にご往生された大切な方々を偲びつつ、永代にお念仏のみ教えが続いていくようにとお参りしております。開闢法要では、特別永代経懇志をご進納頂いた方のご芳名を記載した永代経軸を、本堂余間に奉懸しお参りが勤まりました。布教には、旭川鷹栖町専証寺住職打本厚史師より心あたたまるご法話を頂きました。



余間の永代経法名軸前にて



梵鐘は越前屋総代



ご講師の打本厚史師



令和4年度 特別永代経懇志ご進納者ご芳名 (令和3年11月23日～令和4年11月22日)

一金 10万円也 大野 キヌ様
 一金 50万円也 林 より子様
 一金 10万円也 多田 博司様
 一金 10万円也 鈴木 英昭様

一金 50万円也 金山 京子様
 一金 50万円也 篤信者様
 一金 90万円也 杉本 秀一様

令和4年
11月25日**物故者追悼法要****“また 遇える世界 “**

前に生まれたものは、後を導き、後に残されたものは、
前に往かれたかたの、みあとを訪ねるようにしなさい。

(『教行信証』にて親鸞聖人が『安楽集』道綽禅師の言葉を引用)

直接、言葉を交わしたり、顔をあわせることはできなくなりましたが、
お浄土に生まれ、おさとの身となられた亡き人は、私たちをお導き下さる方となられたのです。
お念仏を申す中で、また、お浄土であわせていただきましょう



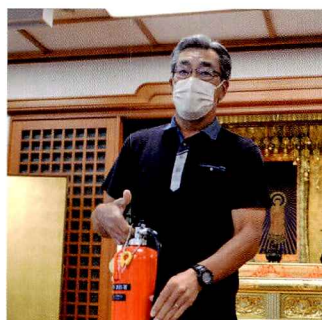
令和4年11月25日今年度の物故者追悼法要が勤まりました。この一年の間に往生された大切な方々をご縁としてお勤め致しました。悲しみ寂しさはあるまま、仏さまに抱かれているありがたさを感じる法要となりました。お取次ぎには、前日の秋季永代経法要に引き続き、打本厚史師よりご法話を頂きました。



司会は長谷川総代

令和4年
8月26日**門徒清掃奉仕 おみがきと消防訓練**

令和4年8月26日、境内の庭はきや仏具のおみがき・お煤払いで汗を流しました。また、引き続き、いざという時の消防訓練を実施しました。元消防所長でもある壮年会國田裕司副会長指導のもと、火災発生を想定した119番の掛け方や、消火器を使った訓練を行いました。



壮年会 國田裕司副会長



令和4年
12月31日
午後11時

じょやえ
除夜会

令和5年
1月1日
午前10時

がんたんえ
元旦会



年の締めくくりに除夜会が勤まりました。総勢300人以上の方が来られ、梵鐘をついた後、本堂でお参り。成人式に該当される方には、住職より記念品を渡しお祝い致しました。

会堂では大勢の方が列をなし、ガラガラ抽選会の開催。また、毎年恒例の「書き締め」コーナーでは、今年一年を振り返った気持ちを漢字で表し、本堂に展示致しました。

翌日の元旦会では、眠い目をこすりながら新年最初の正信偈を聞かせて頂き心も新たに、新しい年のスタートとなりました。



新成人 真夜中に応援

豊平区 地下鉄東豊線福住駅そばにある浄土真宗本願寺派福住寺(福住1の1)では、1月1日午前0時過ぎから本堂で、「真夜中の成人式」を行います。新年に成人を迎える人を寺でも応援しようと、2000年から実施。新成人は自己申告で受け付け、簡単なインタビューに答えると、念珠などの記念品がもらえます。
今年4月から成人年齢が18歳に引き下げ

▼浄土真宗本願寺派福住寺

れたので、23年の成人式は18～20歳が対象です。また、31日午後11時から1月1日午前1時まで、参加者自身が1年を振り返って浮かんだ漢字1字を自由に書く「書き締め体験」を広間で行います。筆ペンと用紙は寺が用意。書いた字は、その場で本堂の壁に張り出します。
31日午後11時半から1日午前1時までは、除夜の鐘突きもできます。「1～108回目までの人には『除夜の鐘つき記念証』をお渡しします。宗派や宗教を問わず、誰でも参加できます」と住職の長尾光洋さん。問い合わせは福住寺、電話851・8654へ。



北海道新聞に掲載された除夜会「真夜中の成人式」

令和5年
4月8日

かんぶつ え

えいたいきょう

灌仏会（花まつり）・春季永代経法要

4月8日はお釈迦様の誕生日

令和5年4月8日より3日間、灌仏会と春季永代経が勤められました。お釈迦様のご誕生に、甘露の雨が降り灌いだと伝えられています。先立たれた大切な方々を偲び、誕生仏に甘茶をかけてお祝いし、永代にわたって途切れることなくお念仏が伝わっていくようにとお勤めいたしました。

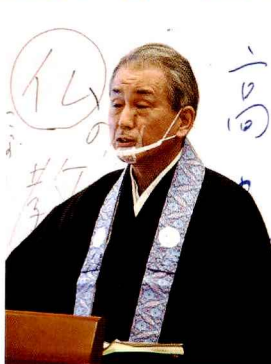
ご法話のご講師には、長沼町誓報寺前住職の天野廣海師をお迎えしお取次を頂きました。



司会の山田総代



司会の三佐川さん



ご講師の天野廣海師



令和5年
6月9日ほうおんこう
仏教婦人会報恩講

令和5年6月9日午後1時より婦人会報恩講が行われました。厳粛な中、清田・月寒地区会員の献花献灯。お花、ロウソク、お餅、お菓子、果物をお供えし、親鸞さまのご遺徳を偲びつつ、皆様が慶びの法要が勤まりました。ご法話は、当寺副住職の恩師、大阪府大光寺前住職清岡隆文先生にお越し頂きました。



仏教婦人会報恩講法要



清田・月寒地区会員による献花献灯



布教は清岡隆文先生



仏教婦人会に入ろう！

昭和2年に発会された福住寺仏教婦人会は、仏縁に導かれた方々が集い、お念仏を中心として様々な活動を行なっております。法要参加はもちろんのこと、法要お手伝い・お磨き・大掃除などの奉仕活動。また、婦人会独自の行事としては婦人会報恩講をはじめ、誕生会や旅行・研修会などを行なっています。どなたでも是非入会をお待ちいたしております。

対象：ご縁ある女性の皆様 年会費：2000円

令和5年
6月9日

しょうさんしき

初参式 (赤ちゃんの初参り)

喜ばしい赤ちゃんの誕生は、親としての誕生でもあります。親子ともども仏さまの光に照らされた人生の新たな出発です。ご家族共にお参りに来られ、イヤイヤと泣き出す赤ちゃんの手形作成などをして、ニッコリ笑顔の法要でした。



菅野実月ちゃん・葉月ちゃん



鈴木啓寿くん



泣きながらも手がた取り



記念品は、手がた色紙・お念珠・本やお菓子を住職よりいただきます



がんばったね☆



令和5年6月10日 親鸞聖人御誕生 850年・ 親鸞聖人

親鸞聖人は1173年5月21日に京都の日野の里にて御誕生されました。父親は藤原氏の流れをくむ日野有範、母は吉光女と伝わっています。9歳の時に出家・得度をされ90年の御生涯をかけて仏道を歩まれました。今、私達にお念仏のみ教えが届いているのも親鸞聖人が御誕生して下さったおかげであります。

福住寺開教記念日である6月10日に宗祖親鸞聖人降誕会が厳修されました。福住寺役員の皆様に伝供衆としてお集り頂き、丁寧に仏前に御供物を奉献し、慶びの法要が勤まりました。



布教は清岡隆文先生



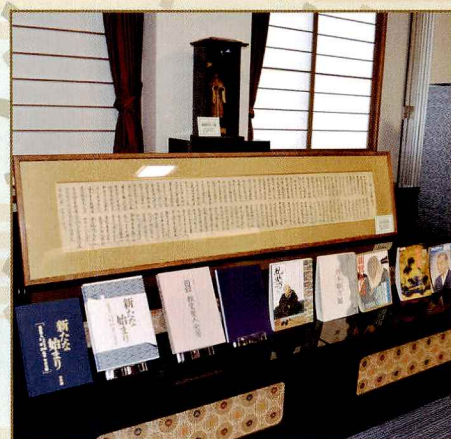
伝供衆のみなさま



お供物の伝供



司会は山田総代



福住寺所蔵の親鸞聖人の宝物

福住寺 開教記念日 立教開宗 800 年慶讃法要 降誕会



令和5年6月10日 **新門徒の集い**



令和5年6月10日午前11時より、新しく福住寺にご縁を結ぶ方々の法要「新門徒の集い」が行われました。お勤め後、住職より登録証が授与され門徒としての自覚を新たに、一同に帰敬文の唱和、お寺に携わる方々の紹介などをして和やかな法要となりました。



有田総代長のあいさつ



登録証授与 代表の加賀見様



帰敬文唱和 代表の岡様



浄土真宗のご本尊 阿弥陀如来の特徴

浄土真宗のご本尊である「阿弥陀如来」の「阿弥陀」とは限りのないいのち（無量寿）、はかり知ることのできない光（無量光）の意味を持ちます。「如来」とは「まことの世界から迷える人を救うために来て下さっている」と願っているのです。

「阿弥陀如来」は、お立ち姿で、頭の後方には「頭光の光背」と呼ばれる48本の光を放ち、阿弥陀仏の誓われた根本の願いである四十八願を根拠としています。

また、両手には印相（右手は親指と人差し指で丸を作り胸の前で外を向け、左手も同じくして下向きに下げている）を結んでいるのが特徴です。右手は、迷える人々を照らし出し、招き呼んで下さる本願招喚^{ほんがんしょうかん}のはたらきがあります。左手は、あらゆるいのちを救いとり決して見捨てることのない、摂取不捨^{せつしゅふしや}を願っています。



安穩堂のご本尊（木像）

さらに、手の指と指の間には、水かきがついています。人間が水を両手ですくうときには、指の間から水が漏れ出てしまいます。如来さまは、誰一人もらさず救うことを指の間に水かきがついていることで教えてくれているのです。立像を横から見てみますと、前傾姿勢、少し前かがみになっています。それは、今すぐ、待たせることなく助けにいくことのできるはたらきを願って下さっています。

その他、ご本尊には、木を材料に製作した木像や、絵で描かれた絵像、さらに文字で顕した名号本尊があります。名号本尊には中央に「南無阿弥陀仏」の六字名号、右側に「帰命尽十方無碍光如来」の十字名号、左側に「南無不可思議光如来」の九字名号などもあります。

本来、色もなく形の無いものを私たちに知らしめるため、姿や形、言葉などになってあらわれて下さっているのです。目に前にいる一匹の虫も如来さまの化身かもしれません。

合掌



本堂のご本尊 前傾姿勢



慈光の間（絵像）



お内仏 名号本尊

しょうみょう 第13期声明クラブ

福住寺で長年続けているお経の練習会は、平成21年から「声明クラブ」という名称で始まりました。わかりやすく楽しくお経や作法などを学ぶことを中心にしております。今期、新たな学びとして、紙芝居「ブッダ」も好評でした。

第13期は6月24日閉講式を迎え、改めて、み仏の救いにあずかっている我が身を実感し、お念仏の中に生かされていることに感謝させて頂くことができた一日となりました。

第14期の開講は、9月16日午後1時半を予定しております。どうぞどなた様でもご参加を心よりお待ちしております。

受賞者の皆様

皆勤賞

有田 時子様
濱本抄恵子様
藤本 昭雄様

精勤賞

尾崎 恵美子様
久保坂美智子様
古清水 淑悦様
中屋 栄子様
本田 洋子様
松本 弥生様



皆勤賞の有田さん



皆勤賞で謝辞の濱本さん



時には「紙しばい」もあります

身も心もほぐれる『おてらヨガ』

お寺にてヨガを始めて4年目。それぞれの体力に応じ、激しい運動が苦手な方には、椅子なども使用し、ゆったりと優しく体を動かします。インストラクターの山根先生のやさしい声に癒されウトウトし、身も心もリフレッシュ。

次回は9月25日午後2時開催です。参加費700円。興味のある方、どなたでもご参加下さい。



雅讃クラブ

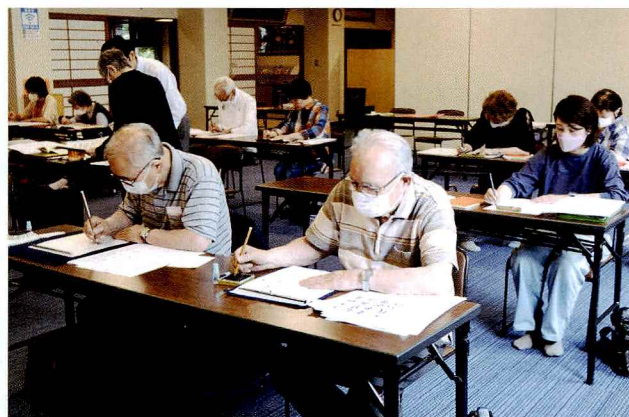
コロナ禍、長い期間お休みしていました雅楽の練習会「雅讃クラブ」は4月より再開させて頂きました。管楽器の笙、龍笛、箏を中心に練習し、今後、福住寺の法要などで練習の成果を発揮できる場が増えることを期待しています。例会は、毎月第1土曜日午後3時半から5時までです。(1月と8月はお休み) 見学も大歓迎、よければ一緒にいかがでしょうか。



写経教室「スートラ」 ※スートラとはお経のこと

第10期の写経教室「スートラ」では讃仏偈をお手本としました。はじめに皆様と共に念珠とお経本を持ってお勤めし、お手本の御文を味わってから写経が始まります。何かと多忙な毎日の中、月に一度、ゆっくり落ち着いて心静かに「サー」と気持ちよく筆を運ぶ……。毎回「いい時間を過ごせた」と参加の皆様は充実されている様子です。

次期9月9日午後1時半より第11期が始まります。上手い下手はありません。筆ペンでの参加も結構です。どうぞお気軽にご参加下さい。



令和4年
7月10日

公開仏教講演会

令和4年7月10日午後1時より、第32回を数える公開仏教講演会が開催されました。本年の講演会には島根県太田市温泉津（ゆのつ）西楽寺住職、菅原昭生師をお迎えし、「これからがこれまでに決める～帰去来（いざいなん）～」をテーマに講演頂きました。人生には失敗も間違いもたくさんあり、仏の教えを聞かせていただく中で、それまで自分の思い通りにいかなかったことも「みんな無駄ではなかった。自分には大事なこと、必要なことであった」と気づかされる講演となりました。恒例の福住寺仏教婦人会によるバザーも行いました。出品の野菜など、ご協力頂きました皆様にも感謝申し上げます。

バザー協力者

池田 和繁様	長谷川浩久様
桑島 忠正様	松本 泰典様
土池三枝子様	松本 吉正様
中村 哲夫様	吉田 照一様



ご講師は菅原昭生師



歌声喫茶「アミーダ」

コロナ禍で長らくお休みしておりました歌声喫茶「アミーダ」は、4月より再開致しました。再開を待ちわびておられた方もいるのではないのでしょうか。

毎月第3火曜の午後2時より、ジャズピアニストの石黒真知子先生の伴奏で楽しくお茶とお菓子をいただきながら、懐かしい歌などを合奏しております。どなたでもどうぞご参加下さい。



令和5年
6月25日**第11回 札幌組「壮年の集い」 福住寺で開催**

令和5年6月25日 札幌組仏教壮年会連盟の「壮年の集い」が9ヶ寺58名の参加のもと開催されました。

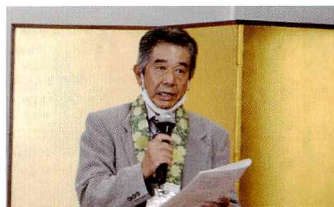
本堂において開会式を行い、会堂に移動してからは札幌組壮年部部長の光明寺西井住職によって総会が進行されました。役員改選では、光明寺越後浩義会長が札幌組連盟会長を辞任されて、新たに福住寺長谷川文一会長が連盟会長に就任されました。引き続き、中田裕規弁護士により「終活を考える～相続で家族に負担をかけない方法～」のテーマで研修会が行われました。最後は、アサヒビール園羊々亭において懇親会が開催され、ジンギスカン鍋を囲んでコロナ禍のうっぴんを晴らすが如く楽しい一時を過ごしました。



調声は磯野収副会長



綱領唱和は松本泰典監査



長谷川文一会長の謝辞



ご講師の中田弁護士



乾杯は有田京史総代長



締め乾杯は宮下敬敏顧問

**仏教壮年会に入ろう！**

平成29年に発会された福住寺仏教壮年会は、ご縁ある皆様とご一緒に、ご法座のお聴聞やお寺の奉仕活動、楽しい親睦会などの活動を行なっています。特に各法要の準備においては男手の力仕事などのお手伝いをいただいております。壮年会独自の行事では研修会をはじめ、夏のジンギスカン懇親会や冬の忘年会などを行なっています。多くの皆様の入会をお待ちしております。

対象：ご縁ある男性の皆様 年会費：2000円

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 参拝旅行

親鸞聖人は1173（承安）年5月21日 京都の日野の里でお生まれになりました。親鸞聖人の説き示してくださった浄土真宗の教えに出遇うことがなければ、今の私はあり得なかったという聖人への感謝と、その教えに出遇えたことの喜びを込めて、福住寺では令和5年4月24日～26日の参拝旅行に行ってきました。あいにくの雨模様でありましたが、一行15名思い出深い京都参拝旅行を満喫しました。



清水奥丹ゆどうふ



清水寺の舞台を背にして



親鸞聖人がお得度された青蓮院



日本最古のエレベーター、北京料理の「東華菜館」



ご本山の前で



御門主様のご親教



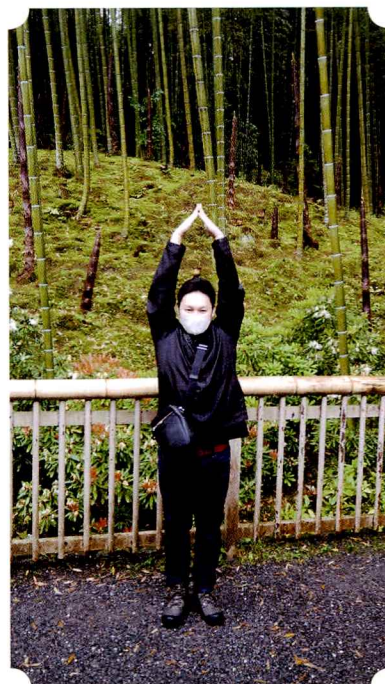
堂内は身も心も引き締まります



南座で『若き日の親鸞』を観劇



東山ソウドウィタリアン庭園の夜景に酔いしれるディナー



仁和寺の「二王門」で「あ、うん」

竹林で「竹の子」になりきって



本山にお参りして 宮内信子

主人が1月に亡くなりまして四十九日の法要が過ぎたころ住職様から福住寺の旅行で「今年は親鸞聖人誕生850年と立教開宗800年の慶讃法要があるので行きませんか」とお誘いのお言葉がありまして、「一瞬卒寿の私が・・・」と躊躇しましたが、子供たちが「お母さんは3年間もお父さんの看病したのだから」、その後、「お母さんが体、大丈夫と思ったら、折角お声をかけてくださったのだから、行って来たら」と言われ参加させていただきました。

立派なお荘厳、広い本堂で大勢の御門徒と一緒に読経をさせていただき、また、ご門主様の厳粛なご法話を拝聴させていただき、本当に有難く、手は自然と合掌し、

目からは涙が流れました。ご本山参りは、初めてなので大きな感動でした。

私たちが生かされておりますのも、阿弥陀様、親鸞聖人、ご先祖様のお徳と感謝を申し上げずにはいられませんが、2泊3日の旅行で2日目と3日目は雨でしたが、清水寺、高台寺、青連院、仁和寺、嵐山散策、天龍寺と楽しく参拝させていただきました。

また、美味しいご馳走をいただき皆様が笑顔で元気で帰宅させていただきましたのも住職様若様のご配慮のお蔭と心から感謝を申し上げます。

残された人生、慈光照護のもと仏法に精進させていただき合掌の日々を送らせていただきたいと思います。

合掌

今後の主な法要・行事日程ご案内

●令和5年

秋	9月	1・2日	宗祖親鸞聖人報恩講法要	親鸞聖人のご遺徳を偲びつつ、報恩のお念仏を申す一年で最も大切な法要
			祖師壽の集い	親鸞聖人(祖師)が歩まれた90年のご生涯、同じ90歳の方々をお祝いいたします
		23・24日	秋季彼岸会	真西に沈む太陽に、彼の岸、西方極楽浄土を想い、先だった方々を偲び勤めます
	11月	23日	永代経開闢法要	お寺の護持発展のため特別永代経懇志をご進納された方々の開闢、初めての法要
		23日	秋季永代経法要	いつまでも永代に、私を救うお念仏が相続されていくことを願い勤めます
		25日	門徒物故者追悼法要	今年度ご往生された門信徒の皆様を偲び、有縁の方々とともに勤まる法要
冬	12月	31日	除夜会	大晦日の夜、ゴオンゴオン(ご恩)と梵鐘をつき、反省と感謝の心で味わいます
			真夜中の成人式	人生の節目、新たな年に成人される方々に、記念品を差し上げるブチ成人式

●令和6年

	1月	1日	元旦会	新年を迎えて初詣はお寺へ。心も新たに感謝のお念仏相続をさせていただきます
		16日	御正忌法要	1263年1月16日がご命日である宗祖親鸞聖人を縁に、その遺徳を偲ぶ法要
春	3月	20日	新入学の集い	新たに小学校へ入学されるお子さんを仏前にてお祝いし成長を喜び合います
		20・21日	春季彼岸会	真西に日が沈む春分の日に、彼の岸への道、阿弥陀仏のお浄土を偲ぶ法要
	4月	8日	花まつり	お念仏をお説き下さったお釈迦さまの誕生を仏像に甘茶をかけてお祝いします
		8～10日	春季永代経法要	いつまでも永代に、私を救うお念仏が相続されていくことを願い勤めます
夏	6月	9日	初参式	授かった新たないのちの誕生を仏さまの前にてお祝いさせていただきます
			婦人会報恩講法要	仏教婦人会主催のもとで、本願念仏の教えを伝えた宗祖親鸞聖人の遺徳を偲ぶ法要
		10日	新門徒の集い	亡き人などをご縁にしてつながり、仏の教えと共に歩む福住寺門徒の入門式
			宗祖降誕会	1173年5月21日親鸞聖人の誕生を喜び、そのご遺徳を讃えて感謝のお念仏を申す法要
	7月	毎週金曜日	朝のお参り「朝活」	心地の良い朝、お寺でお参りをし、清々しい気持ちで一日を始めます
		14日	公開仏教講演会	著名なご講師を招き、わかり易いテーマで、どなたでも参加できる講演会です
	8月	13～16日	盂蘭盆会	納骨堂でのお盆参り。ご家族揃って参拝してください
		16日	初盆会	初盆の方々、先立たれた故人を偲び、ご家族皆様で仏恩に感謝させていただきます
			永代廟納骨法要	境内にある六角形の永代廟へお骨を納め読経する、年に一回のお勤めです

毎月の行事

お経練習会「声明クラブ」毎月1回第4土曜日・午後1時半から3時半まで

写経教室「スートラ」毎月1回第2土曜日・午後1時半から3時まで

雅楽練習会「雅讃クラブ」毎月1回第1土曜日・午後3時半から5時まで

歌声喫茶「アミーダ」毎月1回第3火曜日・午後2時から3時半まで

ヨガ教室「おてらヨガ」毎月1回第4月曜日・午後2時から3時まで

※各法要行事は、感染症の影響等により変更、延期、中止となる場合がございます。ご了承下さい。

編集後記

福住寺月報「なむ」は、平成2(1990)年11月、第1号として発行し400号を超えました。約33年間にわたって、ご法話のみならず法要行事の周知、また、社会の出来事なども広く掲載してきました。改めまして読者の皆様に感謝を申し上げます。福住寺開教130年を迎え、お念仏の相続を中心に、先人の方々や、多くの皆様方が協力し合い培ってこられたご懇念が、今の福住寺を成り立たせて下さっています。この十数年で、お寺の行事も増えました。皆様方には、日頃のご協力に感謝するとともに、おみのに聞かせて頂くことを何よりも優先し、健やかにお過ごし下さいますよう念じ上げます。合掌

中・高齢者お役立ちセンター

守秘義務を負った行政書士(昭和19生)が身近な悩みや問題点を聞き、内容を整理して、合意書・契約書等の作成をお手伝い!どこにどのように問い合わせようのか?わからない事柄のお手伝い。
共に生きる人生100年時代。法定後見・任意後見も受付中です。お問い合わせください。

ファイナンシャルプランナー
行政書士 杉本康則
TEL & FAX : 011-764-0926
携帯 : 090-2645-8529
E-mail : yasu@silkc.ocn.ne.jp

